





日九十二月七年二和昭

一(3)-

## 弱き者

のバラダイスなんて思つてたら  
間違さ。物質に汲みたる我利／＼  
いでゐる中に、僕等も其の御仲間  
に引り込まれてしまふんだよ』

人物 山村 四十二才 小地主 原田 二十二才 最近の漁翁者

木津 二十四五才 渡伯二三年の青年

横島 二十六七才 伯國育ちの青年

ノコエスティ線のある殖民地

時 現代 四月のあるドミンゴの晝すぎ

情景 山村の家の土間中央に大テーブル背

面の食器たな右手のみに数枚の板

積重ね 万葉農家のまえよろしくチ

ーブルの上にカフェ沸しとシカラ三四

食べ散らした甘薯を入れたプラト

裏の方で豚や鶏の騒音を聞かせつゝ幕

を開く

長いバンコの稍々端の方に原田

雑誌を見てゐる。それに向合つて

横島甘薯を頬張つてゐる。

原田雑誌を閉じて、テーブルの

片隅に寄て横島を見る。横島手の

甲で口許をなすりつゝ顔を上げる

原田「伯國と云ふ所は暢氣な処だ

な一日日本なんかに居たらとても日

曜をこんな暢氣にはしてねられや

しないのだがなあ』

横島「そうですね。ほんとうに伯

國は日曜だけいのですな』

原田「だが僕は余り退屈過ぎるよ

何か面白い遊びでもあるといひん

だがなあ。庭球はなし、新しい書

籍もなし、いやになつてしまふな

もう一度あの凄いネットプレーで

も打つて見たいなあ』

原田何事か追憶する如く、腕を

組合はして腰を其の上に上せる。

横島所詮なさうに暫くじっと

してゐるが、やがてホケットから

ナイフを取出して掌の豆を切り初

める。——暫く問——

木津勢よく戸口から入つて来る

木津「やあボアタルデ、何うかね

何が變つた事でもないかね、おば

さん今日は』

原田「ナア、余り面白くもないね

もつと愉快な処と思つてきたが案

外平凡な処だなあ。何んだか自分

の期待がすつかり裏切られてしま

木津「アハハ……君達が余り華か

な希望を抱いてくるからさ。人生

(一)忘れないけど忘れられぬ

胸のもだえと苦しみを

明す術なく筆とするも



田舎のS様へ 在バ市 愛子

△聖州歌壇▽

號一十九百二第

木津「アハハ……君達が余り華かな希望を抱いてくるからさ。人生

(一)忘れないけど忘れられぬ胸のもだえと苦しみを明す術なく筆とするも

## 棉作地夜話

セ・ザル △○ 生

人喰ふとも間味神を食へば何

傀儡師が女房の親は猿廻し

不即不離間隔置いて歩いてた

道行の二人が宿や初時雨

霧の海此処らあたりは遠淺で

新聞に毛斷髮有と云ふ字あり

棉畠が昨今の霜で一度に開いて

客にすゝめ乍らのビンガに廻らぬ

舌も何時しか他人の身の上を兎角

云ひながら様になつた。つれづれ

の棉作地夜話に、おしゃべりのバ

ガゴが隣家の小猫に目をむいて

告げてゐたのをその儘書いてみる

収穫期も晚秋になつたが春めいた心でドンチャン騒ぎをした揚句

頭をなぐられる天下泰平家も出来

だした。ドンチャン騒ぎを思ひ出

すがアクワダワレ耕地の同胞が

最初寄で豊年祝と豪氣を出し次

から次へと家々で其の後豊年祝に

感謝を兼ねてドンチャン騒ぎをし

てなんて云ふ奴は、前に比べると

比較にならん程萎縮した奴だ。丁

度一度焼いたパンを粉にして、再

び焼いた様なもので然も力もない

な奴だ』

今迄黙つて兩人の言話に耳を傾

けてゐた横島が立上つて戸口の方

から去る。外から調子はすれの鴨

綠江節が聞えてきて段々遠ざかる

——短き間——

原田「ちやあ君の第一希望はすつ

かりり壞されてしまつたのね」

本津「否や、だ幾分持ち續けてゐ

るよ。思つて投出してしまつて

伯國化すれば幸福かも知れない

だが、僕には舊い人の様になる事

が出來ないんだ。働く爲の生活ぢ

やなくて、生活の爲の仕事である

筈だ。何だか舊い人のやつてゐ

る事が癖につつて仕方がないんだ

のだ。尤も今迄相當の家庭に、平

物質に抑おつけられる事が嫌ひな

だがな。和に育つて來た僕が、此の伯國に

組合はして腰を其の上に上せる。

横島所詮なさうに暫くじっと

してゐるが、やがてホケットから

ナイフを取出して掌の豆を切り初

めの。——暫く問——

木津勢よく戸口から入つて来る

木津「やあボアタルデ、何うかね

何が變つた事でもないかね、おば

さん今日は』

原田「ナア、余り面白くもないね

もつと愉快な処と思つてきたが案

外平凡な処だなあ。何んだか自分

の期待がすつかり裏切られてしま

木津「アハハ……君達が余り華か

な希望を抱いてくるからさ。人生

(一)忘れないけど忘れられぬ

胸のもだえと苦しみを

明す術なく筆とするも

（二）お別れする時私を

かたく／＼抱きしめて

恨めしいと云つたのね

おまえが町へ出たなれば

情の

（三）何と悲しい言葉せう

貴方のおおしやるその様に

みんな忘れてしまえたら

こんなに闇黙よ鬼どもよ

みんな忘れてしまふのよ

（四）なるほど男は居りますわ

（五）なるほどそれがなぜ

みんな悪魔よ鬼どもよ

わたしの心を乱すのを

じつとこらえて泣いてるの

（六）みんなわなしが悪いのよ

あいだれども／＼

私信じてくれた事

笑ひ話や泣いた事

貴方は待つちやねないの

（七）君の妻や子供が家で迷つたがつてゐる

居候（うん、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（八）あんぐりしく居候してゐてこまる

友人に向つて主人

（君こゝへ来てからもう大分になるが、さ

ぞ君の妻や子供が家で迷つたがつてゐる

（九）おお、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（十）おお、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（十一）おお、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（十二）おお、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（十三）おお、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（十四）おお、よく育つてくれた有難う、それ

では早速お日こへ来る様に手紙を出し

てやろう）

（十五）おお、よく育つてくれた有難う、それ



# SEMANARIO DE SÃO PAULO

(5)

號一十九百二第

日九十二月七年二和昭

## 麻州力市の水間重雄氏 山の中で殺害される

自働車欲しさに警兵が誘ひ出して

麻州カシボグランデ市在留福岡見し、死体遺棄地を同地附近と睨

縣人貸自動車業水間重雄氏は全地

日本人會の幹事及書記を務め内外

銃を以て殺害された事件が突然

した。

水間氏は去る十三日午前十一時全

市警兵第十八聯隊の兵卒に短

銃を以て殺害された事件が突然

した。

水間氏は去る十三日午前十一時全

市警兵第十八聯隊の兵卒アントニ

オ、クラリエーノ同道して自宅

へ歸り晝飯を済まし、全地より四

十二キロの地點へ彼の兵卒と全道

其日の夕方には歸る筈で出發し

たが、火灯す夕刻になつても歸宅

しないのでツルエ夫人も不審を抱

き二三の同業者に問合せた処、彼

等はポンタ、ボランに通ずる道路

を走つて行つたと聞き、マーボー地

迄なら四五日は要すだらうと待つ

てゐた矢先、十六日午後五時突然

御降誕近づく

ロンドン電報エキスチエンジの

報告によれば我皇后陛下には御分娩

近かる可しと承はる。

コロネル、バイス耕主より日本人

會幹事、外交係赤嶺助氏へ全市

を去る三十六キロの地點に水間氏

所の自動車を乗り廻してゐる伯

人兵卒があるとの報を受けた、早

速赤嶺氏は不審の自動車を捕へん

と第一アゼンシヤで、車台及モー

トルの番號調べに行つた処、意外

にも水間氏の自動車は彼の兵卒と

一名のメカニコが全道して十五日

午後四時頃其の自動車の鍵を買ひ

求めに來たとの事實を確めたので

副會長出利葉大三氏へ通知し、一

方全市警察に届出ると全時に、事

件が兵士に關係する事なので憲兵

隊に届出、犯罪者の逃げを恐れ秘

密裡に自動車一台で赤嶺、出利葉

とが犯罪搜査を開始した。

所が犯人は十七日午後は同市近

く十八日は十八キロ距離たりたる所

に遊んでゐた事判明、極力捜索の

結果自働車の遺留しめる場所を發

北原童文庫を出版せるアルス社の

文學者との

## 川井龍之助氏 ジヤウ1號

サントスに着いた

市民主は熱烈的歓

大歓迎のうちにリオに着陸した

耕主の内報により、警官出張逮捕

し投獄した。原因が單に自働車欲

の爲とは情ない事である。

犯人アントニオ、クラリエーノは廿

日午後タバコ分耕地に潛伏中を

会員、同業者等の援助を以て、

モークアリ、ガラジ外に貸家

書記であり、住宅、ガラジ外に貸家

の涙に貴泣させぬものはない。

吉田夫人は悲歎の涙に明暮してゐるのをみて、皆同情

してゐた矢先、十六日午後五時突然

ではないのでツルエ夫人も不審を抱

き二三の同業者に問合せた処、彼

等はポンタ、ボランに通ずる道路

を走つて行つたと聞き、マーボー地

迄なら四五日は要すだらうと待つ

てゐた矢先、十六日午後五時突然

御降誕近づく

ロンドン電報エキスチエンジの

報告によれば我皇后陛下には御分娩

近かる可しと承はる。

コロネル、バイス耕主より日本人

會幹事、外交係赤嶺助氏へ全市

を去る三十六キロの地點に水間氏

所の自動車を乗り廻してゐる伯

人兵卒があるとの報を受けた、早

速赤嶺氏は不審の自動車を捕へん

と第一アゼンシヤで、車台及モー

トルの番號調べに行つた処、意外

にも水間氏の自動車は彼の兵卒と

一名のメカニコが全道して十五日

午後四時頃其の自動車の鍵を買ひ

求めに來たとの事實を確めたので

副會長出利葉大三氏へ通知し、一

方全市警察に届出ると全時に、事

件が兵士に關係する事なので憲兵

隊に届出、犯罪者の逃げを恐れ秘

密裡に自動車一台で赤嶺、出利葉

とが犯罪搜査を開始した。

所が犯人は十七日午後は同市近

く十八日は十八キロ距離たりたる所

に遊んでゐた事判明、極力捜索の

結果自働車の遺留しめる場所を發

北原童文庫を出版せるアルス社の

文學者との

本記事は「若狭丸」の飛行を祝賀した。

日午後タバコ分耕地に潛伏中を

会員、同業者等の援助を以て、

モークアリ、ガラジ外に貸家

書記であり、住宅、ガラジ外に貸家

の涙に貴泣させぬものはない。

吉田夫人は悲歎の涙に明暮してゐるのをみて、皆同情

してゐた矢先、十六日午後五時突然

御降誕近づく

ロンドン電報エキスチエンジの

報告によれば我皇后陛下には御分娩

近かる可しと承はる。

コロネル、バイス耕主より日本人

會幹事、外交係赤嶺助氏へ全市

を去る三十六キロの地點に水間氏

所の自動車を乗り廻してゐる伯

人兵卒があるとの報を受けた、早

速赤嶺氏は不審の自動車を捕へん

と第一アゼンシヤで、車台及モー

トルの番號調べに行つた処、意外

にも水間氏の自動車は彼の兵卒と

一名のメカニコが全道して十五日

午後四時頃其の自動車の鍵を買ひ

求めに來たとの事實を確めたので

副會長出利葉大三氏へ通知し、一

方全市警察に届出ると全時に、事

件が兵士に關係する事なので憲兵

隊に届出、犯罪者の逃げを恐れ秘

密裡に自動車一台で赤嶺、出利葉

とが犯罪搜査を開始した。

所が犯人は十七日午後は同市近

く十八日は十八キロ距離たりたる所

に遊んでゐた事判明、極力捜索の

結果自働車の遺留しめる場所を發

北原童文庫を出版せるアルス社の

文學者との

本記事は「若狭丸」の飛行を祝賀した。

日午後タバコ分耕地に潛伏中を

会員、同業者等の援助を以て、

モークアリ、ガラジ外に貸家

書記であり、住宅、ガラジ外に貸家

の涙に貴泣させぬものはない。

吉田夫人は悲歎の涙に明暮してゐるのをみて、皆同情

してゐた矢先、十六日午後五時突然

御降誕近づく

ロンドン電報エキスチエンジの

報告によれば我皇后陛下には御分娩

近かる可しと承はる。

コロネル、バイス耕主より日本人

會幹事、外交係赤嶺助氏へ全市

を去る三十六キロの地點に水間氏

所の自動車を乗り廻してゐる伯

人兵卒があるとの報を受けた、早

速赤嶺氏は不審の自動車を捕へん

と第一アゼンシヤで、車台及モー

トルの番號調べに行つた処、意外

にも水間氏の自動車は彼の兵卒と

一名のメカニコが全道して十五日

午後四時頃其の自動車の鍵を買ひ

求めに來たとの事實を確めたので

副會長出利葉大三氏へ通知し、一

方全市警察に届出ると全時に、事

件が兵士に關係する事なので憲兵

隊に届出、犯罪者の逃げを恐れ秘</p

